

山田町観光復興ビジョン策定

町全体で目指す「山田プライド」

町が目指す観光まちづくりの指針を定めた山田町観光復興ビジョンが、ことしの3月に策定されました。同ビジョンは、観光関係機関・団体、事業者など12人で構成される策定委員と15人のワーキング委員が約1年間の議論を重ねて検討したものです。今号では、同ビジョンの内容と町内で行われている取り組みについて紹介します。

ビジョンが掲げる三つの基本理念

目指す姿は「山田プライド」

山田町観光復興ビジョンは、同ビジョン策定委員会（豊間根章一^{しょうまね しょういち}会長）が昨年の5月から約1年にわたる検討を重ねて策定しました。同ビジョンは、第9次山田町総合計画の中に位置づけられ、町全体での観光復興を推し進めることを目的とする5カ年計画です。その中で、観光復興の基本理念として定められているのが次の3つ。

- ・地域経済が潤うことに貢献する観光

- ・生活の質が高まることに貢献する観光
- ・町民の活躍機会の創出に貢献する観光

この理念の下、エコツーリズム・体験観光の推進、物産の販売の促進、情報発信、観光に適した環境づくりなどに取り組み、将来目標像「山田プライド」の達成を目指していきます。この目標像は、覚えやすく日常的に使うことができるという理由から選定されました。

地域経済が潤う

物産の販売促進、飲食・宿泊産業の推進

生活の質が高まる

観光、文化・環境が穏やかに共存

町民の活躍機会創出

エコツーリズム・体験観光の推進

山田プライド

我らがふるさと山田の

自然や暮らし・文化、地場産業の魅力を

町民一人ひとりが自信を持って伝えることで

町内外の交流を創出する観光

エコツーリズムの推進

基本理念の一つ、町民の活躍機会の創出。それを実現する場として期待されるのが「エコツーリズム」です。

自然や文化など、地域固有の魅力に住民一人一人が観光客に発信。お客様を呼び込むだけでなく、住民が主体的に取り組むことによって地域社会を活性化させる効果もあると考えられています。



間近で養殖漁業を見学



水車小屋で記念の1枚

そば打ちの様子

町内では、すでにさまざまな体験観光の企画が実施されており、マリン・ツーリズムもその一つ。震災により休止していましたが、昨年再開されました。4月19日は、京都府から12人が参加し、オランダ島への上陸と養殖漁業を見学。参加者からは「海から見た町の景色がきれいな！」「オランダ島の砂浜と海水の美しさに驚きました」「新鮮な

「やまだくじら大学（仮）」発足



海、山、文化、そして人…。山田町の多彩な魅力を掘り起こして楽しみ、内外に発信する「やまだくじら大学（仮）」を町民有志が立ち上げ、中央コミュニティセンターで4月1日、「開学宣言」を行いました。やまだくじら大学（仮）は山田町そのものを楽しむ活動なら、何をしてもよい緩やかな集まり。誰もがいくつも部活を始められ、各部に自由に参加できます。

この日紹介された部活は、特産のホヤの味わい方を極める「ホヤ部」や、アウトドアを楽しむ「BBQキャンプ部」など。参加者は「住んでいる私たちが案外、町のことを知らない。まず自分たちが心から楽しんでいる姿を町外に発信していきたい」と話しています。

関心のある方は下記のアドレスに氏名・電話番号を明記の上、メールを送信するか、フェイスブックをご覧ください。

【メール】 yamadakujiradaigaku@gmail.com

【フェイスブック】 www.facebook.com/yamadakujiradaigaku/

ホタテの味が最高！」などの声が聞こえ、漁師体験を満喫していました。

この他にも、白石地区の水車小屋でのそば打ち体験、ポケットビーチを独り占めできるシーカヤック体験、山田産しゅうりょうを使ったピザ作り体験など、魅力的な企画が目白押しです。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

今回、取材させてもらった漁師体験の現場では、山田を訪れた方々はもちろん、もてなす方

の町民の皆さんにも笑顔がふれていました。一人一人が感じている、ふるさと山田の魅力。それを自信を持って町内外に発信していくことが、観光復興につながると思います。体験観光を企画する以外にも、ツイッターやフェイスブックなど、インターネットを利用するのも効果的かもしれません。できることから始めて、地域一体となって「山田プライド」を実現していきたいでしょう！